

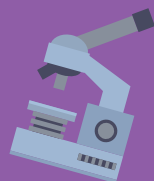
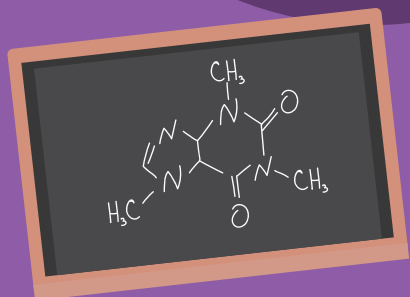
Vita-min
the Station for Vitalizing Your Challenging Mind

vol.5



高知で活躍する 女性研究者 ロールモデル集

高知大学 男女共同参画推進室
男女共同参画支援ステーション





高知大学 理事
(ワークライフバランス担当)

宮井 千恵

現在、我が国は、諸外国に例を見ないスピードで超少子高齢社会が進展しており、家族の形、地域・社会そして職場における働き方にもますます大きな変化が生じております。このような社会の変化に対応できる豊かで活力ある社会を実現するために、女性の一層の社会への参画と男女共同参画の視点が重要であることは言うまでもありません。特に、学知の探究の拠点である大学には教育、職場環境における男女共同参画を阻害している社会が抱える多面的な課題の解決に向けて積極的に取り組むことが要請されています。また、男女共同参画社会の実現にあたっては、行政機関、教育・研究機関、民間企業をはじめ地域の皆さんとの連携・協働が欠かせません。

高知大学は、「男女共同参画の基本理念・基本方針（平成24年2月制定）」を設けて、男女共同参画を大学で実践し、教育につなげ、そして社会に広げるといった基本的な考えのもと、男女双方にとって、働きやすく学びやすい場、個性と能力をよりいっそう発揮できる場を形成することに努めております。

また、四国国立5大学及び公設研究機関等が申請した平成30年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択され、『四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト』が立ち上がり4年目になります。

この取組の一環として、高知大学は県内の多様な分野で活躍されている女性研究者の方々を紹介するロールモデル集を作成しました。本ロールモデル集をきっかけに、地域の研究者の連携の機会を広げるとともに、次世代を担う若者が地域の多様なロールモデルと出会い、教育研究に取り組む機会となりましたら、幸いです。

＼ 四国発信！ ／

ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト

四国地域の問題・課題解決につながる研究から、世界の人々への貢献に発展する研究を目指し、四国地域の産官学9機関が連携して、女性研究者や若手研究者の挑戦の場を広げるとともに、女性研究者の裾野拡大や若手研究者の育成、研究者のライフイベント及びワーク・ライフ・バランスに配慮し、女性研究者のマンパワーを質的量的に増加させ、男性を巻き込んだ総合的なキャリアマネジメントに向けて、「四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト」を展開する。

目標・行動計画

■3つの目標

- 目 標 1：研究力の向上を図り、優れた研究成果の創出につなげ、女性研究者の活躍の場を広げる。
- 目 標 2：女性研究者の増加及び上位職への登用を推進する。
- 目 標 3：研究と生活の調和を図る。

■行動計画

- プロジェクト1：女性研究者が牽引する地域創成イノベーションリサーチシーズの形成
- プロジェクト2：ハイ・ポテンシャル人材育成
- プロジェクト3：研究と生活の調和

－ 目 次 －

杉尾 智子(高知大学 人文社会科学部非常勤講師、高知県青年国際交流機構副会長)	3
高橋 由子(高知大学 学生総合支援センターインクルージョン支援推進室 特任助教)	5
森 明香(高知大学 地域協働学部 助教)	7
渡邊ひとみ(高知大学 人文社会科学部人文科学コース心理学プログラム 准教授)	9
和田絵理子(高知県農業技術センター 作物園芸課 先端生産システム担当)	11



- ◇高知大学人文社会科学部自律学習支援センター(OASIS)英語学習アドバイザー
- ◇高知大学人文社会科学部非常勤講師(大学英語入門担当)
- ◇高知大学大学院総合人間自然科学研究科地域協働学専攻 ◇高知県青年国際交流機構(副会長)

杉尾 智子

すぎお
ともこ

略歴 ミウイスコンシン州立大学スティーブンス・ポイント卒業。人種の枠を超えて「育む、育つ」を軸に、教員やNGO、JICAにて勤務後、研究の道へ。

杉尾 智子さんのとある一日

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	
		起床、NHKワールドニュースチェック、朝食、出勤準備	OASIS勤務開始	個別学習相談	メール対応等	昼食	TOEIC講座等				勤務終了	大学院の講義	夕食、休憩		課題／文献調査や質的調査(オンラインインタビュー調査等)		就寝準備、読書	就寝						

全ての道は研究に通ずる

Q1.教育・研究に携わるようになった経緯を教えてください。

「外国人との平和的共生」を漠然と考え続けてきて、自然に辿り着いた場所が、教育・研究でした。生まれ育った広島で、戦争体験から世界平和を願う人々に出会い、世界に飛び出す決心をした中高校時代。その後のアメリカでの4年半の大学生活や、ヨルダンやマラウイで活動したNGO職員時代は、私に「日本人」としての自覚と、「外国人」として生きる経験を与えてくれました。現在、高知県でも、外国人在住者の更なる増加が見込まれています。これまでの実践経験を踏まえ、「高知県での外国人との共生」について考えてみたいと思った矢先、地域協働学専攻が新設され研究への門が開き、今に至っています。

Q2.研究の魅力はどのようなところですか？

研究初心者の私にとって、「自分発掘」が研究の最大の魅力です。研究では、自分の中に在る漠然とした疑問をとことん突き詰め、その疑問を言語化し、人に論理的に伝えなければなりません。そして、文献調査等から先人の研究を探究することで、さらに自分の思考を深めていきます。研究は、この「自己を内省する過程」におい

て、新たな自分や、諸先輩方と出会わせてくれる、とても贅沢な時間です。

Q3.現在の研究および生活について

私は、修士課程の研究者であると同時に、大学職員及び非常勤講師であり、実家の農家の0.5人役であり、国際交流団体の活動コーディネーター兼通訳でもあります。そのため、研究時間の確保が一年目の課題でした。しかし二年目の今は、研究以外の経験も全て、研究に生かす工夫をしています。例えば、研究協力者(インドネシアの漁業関係者)を国際交流セミナーのゲストとして招くと、研究目的以外の時間を共有することができ、その分信頼関係も深まるため、質的調査の「質」が自然と向上します。また農作業で体を動かしていると、研究への閃きが降臨することもあります。私の現在の生活は、「全ての道は研究に通ずる」、常に研究とともにあります。

Q4.ご自身の研究について中高生にも分かるように簡潔にいうと

高知県の代表的な料理「カツオのたたき」。少子高齢化などを理由に日本人漁師の数が減っているとされていて、久しく経ちますが、カツオを変わらず食べられるのはなぜでしょうか。その背

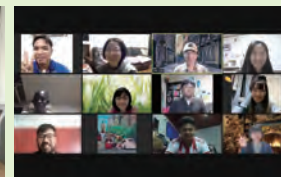
景には、日本で漁師になる(仕事をすることを目標に、自国で漁業技術や日本語を学び、難関試験を突破してきたインドネシア技能実習生たちと、彼らを日本で指導、サポートする日本人の姿があります。研究では、彼らからの聞き取り調査を中心に、日本の漁業産業や地域のあり方を明らかにしていきます。

Q5.日常で大切にしている時間はどんな時ですか

日常こそ丁寧に、ゆとりある生活を心がけています。研究で多くの時間をパソコン前で過ごす分、月二回の実家での農作業は、「体を動かす」「親孝行する」「自然に触れる」といった点で、心に安らぎを与えてくれます。「忙(しい)」とは「心を亡くす」こと。没頭すると頭でっかちになり、周りが見えなくなる自分を知っているからこそ、心技体のバランスを保つことが研究活動の質につながると、日々の当たり前を大切に過ごしています。

研究に携わる仕事を目指す学生へのメッセージ

私は、40代の遅咲きの研究者です。しかし、心がクエッションマークで満タンになった今こそが、私にとっても研究に歩を進めるタイミングでした。人は誰も、「一つの疑問に本腰を入れて向き合ってみよう、そう思った瞬間に、自ずと研究者への扉を開いています。その道を進むかどうかは自分次第。「あなたの心に長年居座っている、解き明かしたい疑問はありますか。」答えが「Yes」であれば、早咲き、遅咲きに関わらず、きっと見事な花を咲かせることができますよ。





◇高知大学学生総合支援センターインクルージョン支援推進室

高橋 由子

たかはし ゆうこ

略歴

○白鷗大学教育学部卒業○高知大学大学院教育学専攻(修士課程)を長期履修で修了、その後同大学院医学専攻(博士課程へ(現在休学中))
○行政・教育・福祉・医療領域で臨床発達心理士として活動。高知ギルバーク発達神経精神医学センター研究員○高知大学学生総合支援センターインクルージョン支援推進室 特任助教

高橋 由子さんのとある一日

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4
	起床・家事・朝食	保育園送迎	業務研究				昼食	業務研究						保育園送迎・家事・夕食	入浴・子どもとの時間	寝かしつけ・家事・余暇	研究	就寝					

応援してくれる人に感謝して、自分のペースで

Q1.教育・研究に携わるようになった経緯を教えてください。

私の専門である障害児の教育・療育の現場で、非常勤心理士として複数の職場で臨床をしながら、大学院生として指導法や生理指標での評価法についての研究を続けていたところ、機会に恵まれ、現在の職に就きました。

Q2.研究の魅力はどのようなところですか？

指導法も評価法も、研究として取り組みを評価することで、障害児者の生活や学びがよりよくなる可能性が広がること、そのことに寄与できることが、なによりの魅力だと考えています。例えば、生理指標による評価によって、周囲の支援者の関わりが変容し、障害のある人の状態が変化したり、効果的な指導法によって学習しやすくなることで当事者の自信につながったりすること等があります。

Q3.現在の研究および生活について

現在は、センター業務と自身の博士論文に位置づく研究の2本柱で進めています。

センター業務の主は障害学生支援ですので、日常的には、障害等のある学生の相談対応や支援、学部等と

の調整を行っています。この中で研究として、発達障害学生の支援法に関する研究に取り組んでいます。

博士論文に位置づく研究としては、主に発達障害児の脳機能の特徴を明らかにすることを目指して脳波研究を行っています。休日等に、研究協力で同意いただいたお子さんについて脳波を取らせていただいたり、データ分析をしたりしています。

Q4.ご自身の研究について中高生にも分かるように簡潔にいうと

発達障害をもつ子ども／大人を対象に、社会生活しやすくなるためのスキルの指導を研究として行い、効果のある取り組みを論文としてまとめることが主な研究です。そうすることで、研究者でなくても現場にいる支援者が有効な取り組みを参考にしたり、利用したりすることで、当事者が生活しやすくなることを目指しています。

Q5.日常で大切にしている時間はどんな時ですか

子どもとの時間、自分の研究の時間です。

子どもとの時間は、特に平日の帰宅後の慌ただしい中でも、家事はできるだけ便利家電に任せて、短時間でも子どもに向き合い関わる時間をもつ

ようにしています。
平日日中はセンター業務が主になりますので、博士取得を目指した自身の研究時間を細切れでもとるようにしています。



研究に携わる仕事を目指す学生へのメッセージ

修士課程在学中に第1子出産、博士課程1年目に第2子出産と、研究と共に子育ても両立して現在もその渦中にいます。研究を継続することができるのは、指導教員や研究者の先輩方、家族の理解やサポートのおかげです。

子育てという選択をしても、研究を続けることができ、研究に携わる仕事を目指すことができる時代になりつつあります。自分のペースで、研究に関わり、ライフイベントの選択ができるといいと思います。





◇高知大学 地域協働学部

森 明香

もり さやか

略歴

立命館大学政策科学部国際インスティテュート国際公務プログラム卒業。一橋大学大学院社会学研究科修士課程修了、博士後期課程単位取得退学。専門は社会学。2015年高知大着任、現在に至る。

森 明香さんのとある一日

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4
		起床	メールチェック、朝御飯、家事など	出勤	授業準備や校務		昼休憩	授業		学生対応、授業準備や校務			帰宅、ヨガ入浴	在宅オンライン会議		退勤、晩御飯	読書、ドキュメンタリー視聴ほか		就寝				

研究は、社会と自分への理解を深める営み

Q1.教育・研究に携わるようになった経緯を教えてください。

大学2回生の春休みに、その後通い続けることになる研究フィールド(=「川辺川ダム問題」の現場)を初めて訪れたことがきっかけです。それまでは国際的な社会問題に取り組む仕事をしたいと思い、国連や国際NGOに憧れていました。

当時の日本社会でダムは無駄な公共事業の典型でした。現場で国策に翻弄される流域の人びとの具体を目の当たりにし、外ばかりを見て国内の問題を知ろうとしなかった己の無知を自覚させられました。

Q2.研究の魅力はどのようなところですか？

問題のメカニズムや構造について調査を踏まえ言語化したときの充実感や清々しさは、他の何物にも代えられないように感じます。その後も探求は終わることなく、自分自身の考えやモノの見方をさらに鍛えて発展させていくことができます。達成感が次の問いをもたらします。

上記には“産みの苦しみ”も伴いますが、“産む”過程の調査先の人びとや先行研究を通して得られる視点との出会いもある。これらも私にとっては「研究の魅力」です。

Q3.現在の研究および生活について

ダムが建設された流域社会に通ってお話を伺い、近代治水の具体策であるダム技術が川と人との関わり方に激変を余儀なくさせたことを、教わり続けてきました。溢れ流れることで肥沃な土壌を流域に供給し、多様な生物の住処や水源となっている川を堰き止めるダム技術は、今なお良い面ばかり喧伝されています。しかし、想定外の豪雨が毎年のように各地を襲い、自然破壊のみならず流域の被害拡大をも招きかねないダム技術の弊害面も、きちんと知る必要があると考えています。

ダムのない頃の川を知る方は年々少なくなっていますが、川を生業としてきた方々や水害体験者の方々の口述史を通じて、川との共生の知恵がどう変質するのか、教訓を得て賢明な選択を社会が行えるよう、記録を続けたいと思っています。

Q4.ご自身の研究について中高生にも分かるように簡潔にいうと

持続可能な川の在り方について、人びとの暮らしの中で育まれた知恵に教わりながら探求しています。川は流れ溢れることで自然界の中での役割を果たしています。では、川の傍で代々住み続けてきた人たちはそんな

川とどう付き合ってきたのか。川の役割を損じさせることなく、気候変動の時代にあって人は川とどう付き合っていくのか。先人の知恵に学びつつ、持続可能な川との付き合い方を実現するための河川政策に寄与することを目指しています。

Q5.日常で大切にしている時間はどんな時ですか

一つの場に身を置き続けると常に気を張り続けて息が詰まってしまうタイプなので、いつもと異なる環境や世界と接する機会を定期的を持つことを心がけています。日々の暮らしの中では、ヨガをしたり山や川を眺めたり昔ながらの銭湯に行ったり、家族と映画やドキュメンタリーを鑑賞して議論するなど、可能な時にはリラックスできる時間を取るようになっています。



研究に携わる仕事を目指す学生へのメッセージ

自分を突き動かすような問いを持ちその解を見つけるための営みは、大変ですがやりがいを感じられるものだと思っています。社会に対する自身の認識の変化、自身が大切にする価値観を共有できる人びととの邂逅、自分自身の変化といったことも、時に戸惑いながら楽しむことができる仕事だと思っています。





◇高知大学人文社会科学部人文科学コース心理学プログラム 准教授

渡邊 ひとみ

わたなべ
ひとみ

略
歴

○同志社大学文学部を卒業後、同志社大学大学院文学研究科博士課程後期課程を修了。博士(心理学)○同志社大学心理学部助教を経て、2017年4月より高知大学人文社会科学部講師。2020年7月より現職○2019年度より放送大学高知学習センター客員准教授を兼任。

渡邊 ひとみさんのとある一日

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4
起床		朝食、出勤	授業準備	授業		卒論指導など	バドミントン	昼食、諸々の仕事	学生面談・卒論指導など(夕方)				共同研究			帰宅、夕食	読書や映画鑑賞など			就寝			

焦らない、考えすぎない、諦めない

Q1.教育・研究に携わようになった経緯を教えてください。

元々は「国連機関で働く」という、今となっては恥ずかしいくらい分不相応な夢を持っていました。そのため、大学入学前から留学の計画を立てていました。無事に、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)で心理学を学ぶ機会を得たのですが、多岐にわたる心理学領域に触れる中で、また世界各国からの友人と過ごす中で、改めて「人間って面白いな」と思ったことが研究の道に進むきっかけとなりました。人生の大方向転換です。

Q2.研究の魅力はどのようなところですか？

シンプルに楽しいところです。心理学は人のこころを扱う学問であるため、日常の中にあるちょっとした不思議も研究テーマになり得ます。しかし、それを科学的に実証しようと思うと、そう簡単にはいきません。共同研究者とアイデアを出し合ったり、苦労しながらデータ分析をして論文にまとめたり、時には批判もされたり。私にとっては、その全部の過程がワクワクするものです。ただし、締切に追われていなければ、の話ですが(笑)。

Q3.現在の研究および生活について

ひと言でいうと、「多様性に富んだ生活」でしょうか。今までは心理学者の集まりの中で生活することが多く、お互い確認し合わなくても共有している常識や前提がありました。現在の職場では、様々な分野の先生方と一緒に仕事をさせてもらっていますが、お話を聞いていると自分が知らないことが本当にたくさんあり、新しい視点や心理学者の思考の偏りに気付かされる毎日です(笑)。また、放送大学では、隔週で一般向けのセミナーを開催しています。幅広い世代の方々とお話をする中で「社会で何が求められているのか」に気付くこともあります。研究者ではない方々の視点はとても大切で、自分の研究のヒントになることも多いです。

Q4.ご自身の研究について中高生にも分かるように簡潔にいうと

私は発達心理学を専門としています。発達心理学は乳幼児期から高齢期までの人生全体を扱う学問です。現在、3つの研究を同時に進めており、(1)出産を機に仕事を辞める女性と続ける女性は「自分らしさ」という点でどう異なるのか、(2)過去の辛い経験の中にどのような肯定的意味を見出すことが健康につながるのか、(3)

誰かの不幸に対して感じる「様を見る」という感情を親友と共有したら何がおきるのか、に興味をもっています。

Q5.日常で大切にしている時間はどんな時ですか

日常生活のリズムの中に組み込んでいく大切で楽しい時間は、職場のお昼休みのバドミントンです。負けることのほうが多いですが、勝敗に関係なく元気になります。周囲の人と笑ってお喋りする時間もとても大切です。あとは、趣味の写真、読書、音楽・映画鑑賞、語学習得、ペラнда菜園(今年はパブリカ栽培に挑戦しました)、旅行の時間(コロナ前は砂漠に行きたくなり、ドバイを訪れました)でしょうか。たくさんあり、とても書き切れません。



研究に携わる仕事を目指す学生へのメッセージ

多忙な毎日を送っていると、研究の目的が「業績を増やすため」「良い就職先を見つけるため」といった内容にすり替わってしまうことがあります。そうすると、楽しいはずの研究が苦痛になります。これは多くの研究者が経験することではないでしょうか。そんなときは、「自分は何のために研究をしているのか」という部分に立ち戻ることが重要だと思っています。その点を忘れなければ、みなさんらしい研究を成し遂げることができると思います。



◇高知県農業技術センター 作物園芸課 先端生産システム担当

和田 絵理子

わだ
えりこ

- 略歴
- 高知大学農学部農学科 暖地農学コース卒
 - 高知県庁へ入庁

和田 絵理子さんのとある一日

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4
	起床	出勤	ハウス管理	調査				調査や書類作成等						帰宅	夕食		就寝						

難しいことに取り組んでいるからこそ 得られる充実感が大きいです

Q1.教育・研究に携わるようになった経緯を教えてください。

大学では蔬菜園芸学を専攻していたので、専門知識を身に着けたいと思い、地元の農業職を目指しました。面接では、農家と直接関われる普及職を志望しましたが、配属されたのは研究職だったので驚きました。研究員としての経験が乏しいため、不安でいっぱいだったというのが本音です。

Q2.研究の魅力はどのようなところですか？

難しいことに取り組んでいるからこそ得られる充実感が大きいことです。実際に栽培をしつつ植物体等を計測し分析をしていくので、体力的につらい時もありますし、自然相手なので思ったような栽培管理ができず苦勞することもあります。しかし、私たちのデータを基に生産現場で指導等が行われているので、責任のある役割を担っていることを意識しながら、日々の調査を行っています。

Q3.現在の研究および生活について

冬期のハウス内環境は、光や温度が不足している上、温度を保つために閉鎖気味となり、植物の光合成能力が低下

しやすいです。そこで、ハウス内の環境を調節することで、光合成を高め、冬期に増収できる技術開発に取り組んでいます。また、最終的には、増収技術だけではなく、植物体を制御するための助言ができるような、生産者の営農支援に繋がる機能の開発を関係機関の方々と目指しています。

Q4.ご自身の研究について中高生にも分かるように簡潔にいうと

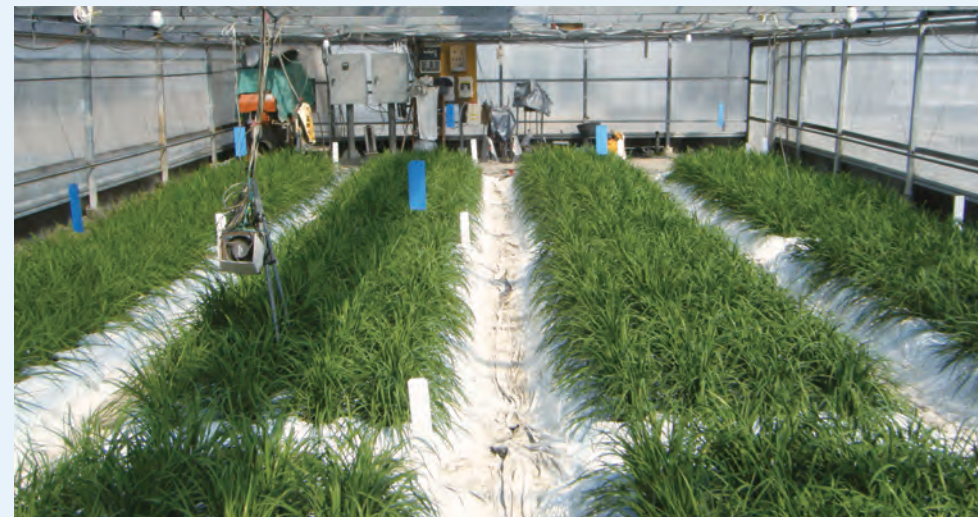
高知県ではニラ栽培が盛んで、作付面積は他県と比べて小さいのに、出荷量は全国一位です。暖地であることを生かし、冬もハウスでニラを栽培することで、面積あたりの収量を増やしています。植物の特性上、本来は冬に大きく生育できないのですが、ハウス内の環境を調節することで生育をコントロールしたり、収量を増やしたりする方法の開発に取り組んでいます。

Q5.日常で大切にしている時間はどんな時ですか

ゆったりする時間です。家族、同僚、仕事関係の方々との雑談や、趣味に没頭するときなど。仕事が忙しいときこそ、思いついて休んでなにも考えないことを心がけています。

研究に携わる仕事を目指す学生へのメッセージ

自己理解を深めておくことが大事だと思います。これからたくさんの分岐点に出会うと思いますが、自分の芯にある気持ちを大切にしてみてください。



高知大学男女共同参画推進室では、ダイバーシティ研究 ワークライフバランスのとれた研究環境の実現、男女共同

環境実現イニシアティブを活用して、研究と生活の両立、
参画の推進のため、次のような取り組みを行っています。

①ダイバーシティ研究・職場環境の整備

① 研究支援員制度の実施

研究支援員が研究補助を担うことで、ライフイベント中の研究者が計画的に研究の遂行と生活時間の確保が出来るように支援する制度です。

② 力仕事サポーター制度

女性研究者が妊娠・出産・病気からの復帰（病気からの復帰は男性含む）で力仕事が必要な作業（実験機器の運搬等）を事前登録の力仕事サポーターが支援する制度です。

③ ライフイベントからの復職支援制度

過去2年以内に、ライフイベント（妊娠、出産、育児、介護）のため、休業又は産前・産後休暇、もしくはその両方により、3か月以上やむを得ず研究活動を中断した方の研究を支援します。支援金額：5～10万円以内（令和3年度）

④ 介護パンフレット『介護に備えちゅうかえ』

高知大学では介護準備のパンフレットを作成し、教職員に配付しています。

⑤ ライフイベント休憩室（SANKAくんのおうち）

高知大学朝倉キャンパスの正門から左手にある構内クラブ1階に、ライフイベント中の教職員や学生が利用できる休憩室「SANKAくんのおうち」が利用できます。授乳、搾乳、おむつ交換、お子さんとの休憩、子育て交流会などに利用できます。利用時間は原則平日9時から16時30分までです。人事課（本部管理棟3階）で鍵を借りて、ご利用いただけます。

⑥ マネジメント・セミナーの開催

⑦ 管理職セミナーの開催

⑧ 男女共同参画意識セミナーの開催

⑨ 女性活躍推進セミナーの開催

⑩ 高知県ワークライフバランス推進企業認証（次世代育成部門）の取得

⑪ 産後ケアのオンライン講座2020（NPO法人マドレポニータ作成：職員向け講座）



①ワーク・ライフ・バランス講座



②女性研究者の研究力向上

① ダイバーシティ推進共同研究支援制度

② 研究交流発表会（四国地域の大学、公設研究施設、企業等の研究交流会）

③ 国際学術論文投稿支援制度

④ 高知大学女性研究者奨励賞の募集

⑤ 英語論文書き方セミナーの開催



③裾野拡大

① ロールモデル講演会

② ロールモデル集の発行

③ 若者の働き方に関するセミナー

④ 男女共同参画意識啓発セミナー

④地域との連携・協働

① キャリア形成セミナー（こうち男女共同参画センター「ソーレ」共催）

② デートDVセミナー（こうち男女共同参画センター「ソーレ」共催）

③ 認知症サポーター養成講座の開催（高知市役所、認知症の人と家族の会高知支部の協力）

④ ニュースレターの発行



これからも、地域と連携して男女共同参画の推進に取り組んでまいります。

ダイバーシティ推進共同研究プロジェクト



◇ダイバーシティ推進共同研究支援制度

本事業では、女性研究者が研究代表者として取り組む共同研究に対して助成を行います。女性研究者のリサーチマインドを高め、地域や社会の問題・課題解決につながる優れた研究成果の持続的創出をはかることを目的とします。

以下の研究が採択されました

○2018年度採択

- 研究課題名:「コンプレキシンによる抗体分泌制御が全身性エリテマトーデスの病態進行抑制に果たす役割」
- 研究代表者
都留 英美 助教(高知大学教育研究部医療学系基礎医学部門)
- 共同研究者
田良島 典子 助教(徳島大学大学院医歯薬学研究所)
津田 雅之 准教授(高知大学教育研究部医療学系基礎医学部門)

○2019年度採択

- 研究課題名:「多文化共生社会構築に向けて少子化四国の保育と子どものウェル・ビーイングを考える - 日本四国と中国遼寧省の子育て支援・就労・ジェンダーの比較から -」
- 研究代表者
磯部 香 講師(高知大学 教育研究部 人文社会科学系教育学部門)
- 共同研究者
小方 朋子 教授(香川大学 教育学部学校教育教員養成課程)
桑原 育子 副園長(香川大学 教育学部附属幼稚園)
李 東輝 教授(大連外国語大学 日本語学院)
黄 一峰 講師(大連外国語大学 日本語学院)
玉瀬 友美 教授(高知大学 教育研究部人文社会科学系教育学部門)
中山 美香 副園長(教育学部附属幼稚園)
森田 美佐 准教授(高知大学 教育研究部人文社会科学系教育学部門)

- 研究課題名:「Iron sulfides in metamorphic rocks: a rock magnetic approach in the Sanbagawa belt, central Shikoku, Japan」
- 研究代表者
KARS Myriam 助教(高知大学海洋コア総合研究センター)
- 共同研究者
ABRAJEVITCH Alexandra 特任講師(愛媛大学理学部地球科学)
橋本 善孝 教授(高知大学教育研究部自然科学系理工学部門)
小玉 一人 研究員(高知大学 高知コア総合研究センター / 同志社大学 研究開発推進機構)

- 研究課題名:「生体分子に応答して色調変化を示す超分子ヒドロゲルセンサの開発」
- 研究代表者
越智 里香 助教(高知大学教育研究部 総合科学系 複合領域科学部門)
- 共同研究者
米山 香織 助教(愛媛大学農学研究科応用生命機能学コース生物有機化学教育分野)

○2020年度採択

- 研究課題名:「会議アプリツールを用いたオンライン授業におけるアクティブ・ラーニングの授業デザインとTipsの開発 ~ 教育効果を上げる教授モデルの開発」
- 研究代表者
杉田 郁代 准教授(高知大学 教育研究部 人文社会科学系教育学部門)
- 共同研究者
中井 俊樹 教授(愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室)
竹中 喜一 講師(愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室)
吉田 博 准教授(徳島大学 高等教育研究センター)
塩川 奈々美 助教(徳島大学 高等教育研究センター)
塩崎 俊彦 教授(高知大学 教育研究部総合科学系地域協働教育学部門)
高畑 貴志 特任講師(高知大学 大学教育創造センター)

○2021年度採択

- 研究課題名「修学上支援が必要な大学生に対する合理的配慮と授業のユニバーサルデザイン化 Tipsの開発」
- 研究代表者
高橋 由子 特任助教(高知大学 学生総合支援センター インクルージョン支援推進室)
- 共同研究者
住谷 さつき 教授(徳島大学キャンパスライフ健康支援センター アクセシビリティ支援部門)
松本 秀彦 教授(高知大学教育研究部人文社会科学系教育学部門)
杉田 郁代 准教授(高知大学教育研究部人文社会科学系教育学部門)
- 研究課題名「加水分解酵素に応答して色調変化を示す超分子ヒドロゲルセンサの開発」
- 研究代表者
越智 里香 助教(高知大学教育研究部 総合科学系 複合領域科学部門)
- 共同研究者
米山 香織 特任講師(愛媛大学農学研究科 生命機能学専攻 応用生命化学コース)

女性研究者による優れた教育研究活動の支援に努めます

一 四国内国立5大学による男女共同参画推進共同宣言 一

私たち四国に位置する国立5大学は、地域に根ざした大学として、特色ある世界水準の教育研究を推進するとともに、地域の発展の基盤となる人材の育成、文化芸術、産業、医療等の振興、充実への貢献に努めています。

男女共同参画基本法制定以来10年を経て、産業構造の変化とともに、女性は社会経済活動等に積極的に参画し、性別にかかわらず活躍の場を広げています。特に急速な少子高齢化が進む四国地域では、女性の一層の参画が社会・経済活動等の維持・発展で不可欠となっています。

このような中、私たちは、女性研究者、女子学生の積極的な活動は、多様な視点や発想を取り入れ、教育研究活動を活性化し、組織としての創造力を発揮する上で極めて重要であり、より多数の優秀な女性研究者、学生が意欲的に教育研究に取り組むことが各大学、ひいては四国地域の今後の発展に大きく寄与すると認識し、全国の才能溢れる女性が四国の地にいざなわれ、この地で活躍することを強く期待します。

このため、私たちは、各大学において女性が教育研究において一層活躍できる環境を重点的に整備するとともに、次世代を担う女子学生の育成に努力し、さらに、古来より遍路道で結ばれた四国における大学、研究機関、地方自治体、企業、市民との連携を強めることにより、男女ともに個性と能力を発揮できる大学と社会の実現に貢献することを宣言します。

< 私たちの重点的な取組 >

1. 優秀な女性研究者の数の拡大を目指し、教員公募において全国からの女性研究者の応募を期待し、優秀な女性研究者を積極的に登用すること。
2. 女性研究者の優れた教育研究の取組を積極的に支援すること。
3. 男女共同参画の視点に立った教育・研究環境及び就業体制を確立すること。
4. 大学の構成員の教育・研究・就業と家庭生活との両立を支援すること。
5. 女性のキャリア形成と次世代の育成にかかる取組を充実すること。
6. 大学運営における意思決定過程での女性の積極的な参画を推進すること。
7. 男女共同参画の推進にむけた大学をはじめとする関係機関のネットワークを構築すること。

平成23年2月22日

徳島大学長	香川 征
鳴門教育大学長	田中 雄三
香川大学長	一井 眞比古
愛媛大学長	柳澤 康信
高知大学長	相良 祐輔

高知大学における男女共同参画の基本理念・基本方針

平成24年2月8日制定

< 基本理念 >

男女共同参画社会基本法（平成11年6月制定）は、男女共同参画社会の実現を21世紀の我が国社会を決定する最重要課題であると位置づけています。

男女共同参画社会とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」を意味しています。

このように男女共同参画が社会全体として目指される転換期において、大学には、教育と職場環境における男女共同参画を阻害する偏見や差別、仕事と私生活との両立の困難など、社会が抱える多面的な課題の解決に向けて積極的に取り組むことが要請されています。学知の探求の拠点として、次世代育成の母体として、さらには地域社会の発展の基盤として、大学は、男女共同参画社会を実現するための先進的なモデルを提示すべき立場にあります。

高知大学は、「男女共同参画を大学で実践し、教育につなげ、そして社会にひろげる」という基本的な考えのもと、男女双方にとって、学びやすく働きやすい場、個性と能力をよりいっそう発揮できる場を形成することに努めます。そして、学問の府として、男女共同参画社会の形成に寄与する責務を果たします。そのため次の基本方針を掲げ、男女共同参画社会の実現に向け着実に歩みを進めます。

< 基本方針 >

1. 男女がともに生き活きと能力を発揮できる職場環境・教育環境を築く
2. 男女共同参画の教育を充実させ、男女共同参画社会の形成に寄与する人材を育成する
3. 男女共同参画社会の実現をめざし、大学での実践を社会に向け発信する





Vita-min
the Station for Vitalizing Your Challenging Mind

高知大学女性研究者ロールモデル集

国立大学法人 高知大学 男女共同参画推進室
男女共同参画支援ステーション Vita-min

the Station for Vitalizing your challenging Mind

〒780-8520 高知県高知市曙町二丁目5番1号 URL: <http://www.kochi-u.ac.jp/sankaku/>
TEL: 088-888-8022 FAX: 088-888-8023 E-Mail: sankaku@kochi-u.ac.jp